

中小企業共通 EDI 標準仕様書  
<付属書>  
XML 実装ガイドライン  
ver.4 \_draft\_r2a\_20220716

特定非営利活動法人  
IT コーディネータ協会  
つなぐ IT 推進委員会  
共通 EDI 標準部会

## 改定履歴

	バージョン	改定日	改定内容
1	<付属書>XML 実装 ガイドライン ver.4_draft_r2a	2022/7/16	中小企業共通 EDI 標準仕様書 ver.4_draft バージョンアップと連携 し、新規策定

## 目次

1. はじめに .....	1
2. 共通 EDI 標準メッセージのフレームワーク .....	3
2. 1. ASBIE/ABIE/BBIE の構造化情報項目セット .....	3
2. 2. 共通 EDI_BIE 表の EDI 文書表現.....	4
3. XML バインディングと実装.....	6
3. 1. 国連 CEFACT_XML メッセージの構築方法.....	6
3. 1. 1. 情報項目のバインディング .....	6
3. 1. 2. UDT、QDT のインポート .....	6
3. 2. 中小企業共通 EDI 標準の XML メッセージの構築方法.....	7
3. 3. 共通 EDI_XML バインディング手順.....	7
3. 4. XML スキーマの生成例 .....	10
4. サンプルデータ .....	14
●注文書サンプル帳票.....	14
●請求書サンプル帳票.....	14
●サンプル注文書のマッピング .....	15
●サンプル請求書のマッピング .....	21

## 1. はじめに

この共通 EDI\_XML 実装ガイドラインは業務アプリベンダが XML による EDI データ交換仕様の実装をサポートするために策定された。最初に本ガイドライン作成に至った経緯を紹介する。

中小企業共通 EDI 標準は中小企業取引デジタル化の実現を目指して策定された。これまでに実用化されている EDI 標準は、その利用に送信者と受信者による EDI 連携のための多額の投資が必要となるため中小企業に普及することができなかった。

中小企業共通 EDI は送信者と受信者の負担を極小化し、FAX 利用と同程度の費用で EDI 利用を可能とするサービスを提供している。これは近年急速に普及したクラウド技術を活用することにより実現した。

中小企業共通 EDI は次のような構成で EDI サービスを提供している。

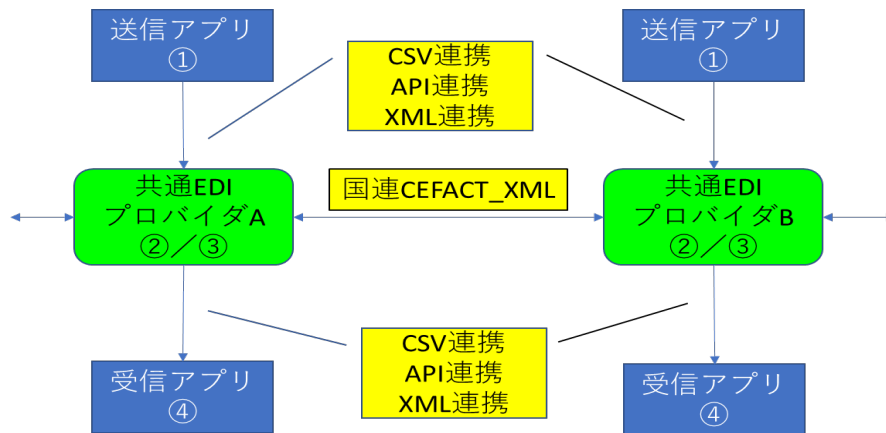


図 中小企業共通 EDI の全体構成

中小企業共通 EDI は次の 2 つのルートで送信アプリと受信アプリ間を接続している。

【ルート 1】送信アプリ①→共通 EDI プロバイダ②→受信アプリ④

【ルート 2】送信アプリ①→共通 EDI プロバイダ A②→共通 EDI プロバイダ B③  
→受信アプリ④

送信アプリと受信アプリは共通 EDI プロバイダを経由して連携する方式としており、共通 EDI プロバイダとユーザー業務アプリ間は CSV 連携、API 連携、XML 連携で接続方法を規定している。これはユーザーニーズに応じて連携方式を選択できるように配慮したためである。

中小企業共通 EDI は中小企業に広く普及しているパッケージ業務アプリを利用して EDI 取引への移行を簡易に実現するために、パッケージアプリが一般的に備えている CSV エクスポート、インポート機能を活用することにした。既存の業務アプリが備えていない EDI 通信機能やフォーマット変換機能等は共通 EDI プロバイダが提供することにより、既

存 EDI の高額投資負担がユーザーに生じないようにしている。

CSV 連携では高度な EDI 機能の利用ができないので、技術力のあるユーザーには API 連携による高度な EDI 利用ができるようにした。ただし API 連携業務アプリは特定の共通 EDI プロバイダとの連携に限定される。

XML 連携はこれまで「ルート 2」に示す共通 EDI プロバイダ間連携（②⇔③）に利用することを主目的として標準化されている。共通 EDI プロバイダは今後多くのプロバイダ事業者によりサービスが提供されると考えられるが、この状況で共通 EDI プロバイダ間の EDI データ交換ができないと「多プロバイダ問題」が発生する。この問題を避けるために「ルート 2」への対応を共通 EDI プロバイダに対する必須の要件として規定している。

業務アプリ間で EDI データ交換するためには、送信業務アプリ固有のデータ仕様を共通データフォーマットに変換し、受信アプリがインポートできる仕様に再変換してデータを受信者に引き渡す手順をとる。共通 EDI プロバイダ間で交換する EDI データとして国連 CEFAC\_XML フォーマットの利用を共通 EDI 標準の必須要件として規定した。

共通 EDI プロバイダと業務アプリ間の XML 連携については、その詳細の規定は標準には組み込んでおらず、将来開発される「レベル 2 業務アプリ」への標準実装を要請するにとどめていた。

ここへきて業務アプリに XML 実装ニーズが顕在化してきたので、本ガイドラインを策定することとした。

業務アプリに XML 連携を実装すると、次のようなメリットが得られる。

●業務アプリの XML 連携実装のメリット

1. 高度な EDI 連携機能が利用できるようになる。
2. すべての共通 EDI プロバイダとの接続が可能になる
3. XML 添付 PDF アプリへ組込むことができる
4. PDF アプリは電帳法の対応要件を満たしている

XML メッセージを利用すれば中小企業共通 EDI メッセージの「任意」情報項目に組み込まれた高度なユーザーサービス機能の利用が容易にできるようになる。

またすべての共通 EDI プロバイダは XML 連携機能を標準として備えているので、XML 連携アプリはすべての共通 EDI プロバイダとの連携が可能になる。API 連携では特定のプロバイダごとに固有の連携仕様を実装しなければならないので、広く普及させるには不利である。

また新しく登場してきた XML 添付 PDF アプリは欧州ではすでに実用化されている。CSV 連携を PDF 連携に置換えれば電帳法の要件にも対応できるので、ユーザーにとっての利便性が向上する。

## 2. 共通 EDI 標準メッセージのフレームワーク

中小企業共通 EDI メッセージは国連 CEFAC XML フォーマット規定に基づき策定されている。メッセージ仕様は中小企業共通 EDI 標準仕様書<付表 2> 中小企業共通 EDI メッセージ辞書・BIE 表（以下、共通 EDI\_BIE 表という）が EXCEL 表として提供されている。この EXCEL 表から実装可能な XML スキーマを作成手順することができる。

### 2. 1. ASBIE/ABIE/BBIE の構造化情報項目セット

共通 EDI\_BIE 表は次の情報項目セットで構造化された構成となっている。

- ・ BBIE (Basic Business Information Entity：基本ビジネス情報項目)
- ・ ABIE (Aggregate Business Information Entity：集約ビジネス情報項目)
- ・ ASBIE (Associate Business Information Entity：関連ビジネス情報項目)

これらの区分は共通 EDI\_BIE 表の「情報種」の欄に示されている。

BBIE はデータを格納する基本の情報項目である。BBIE は機能別にグループ化され ABIE のもとにまとめられている。このグループはクラスと呼ばれ XML スキーマの共通基本単位となる。ABIE クラスは共通構造化されているので、上位の XML クラスと関連付けないとユニークにならない。この関連付けに利用する情報項目が ASBIE である。

ABIE クラスは機能別に構造化して提供されているので、ベンダーは必要な ABIE クラスを選択して実装することになる。ABIE クラスを自由に選択することは可能であるが、バラバラに実装すると相互連携性が保てなくなるので、中小企業共通 EDI は業界別やユーザーニーズなどの用途別区分を設けているので、これらの区分を選択して実装することが適切である。個社固有のメッセージ展開は相互連携性確保の観点から標準 ver.4 では禁止している。

上記の詳細な解説は国連 CEFAC 日本委員会（一社）サプライチェーン情報基盤研究会（SIPS）より提供されているので参照されたい。

[http://www.caos-a.co.jp/SIPS/documents/ccl\\_overview.pdf](http://www.caos-a.co.jp/SIPS/documents/ccl_overview.pdf)

中小企業共通 EDI 標準 ver.3 では中小企業の汎用的な必須情報項目と利用任意の任意情報項目に 2 分して構成されていた。しかし任意情報項目には汎用的なユーザー便利機能と中小業界固有の情報項目が混在して組み込まれていたため、任意情報項目のマッピング作業が分かりにくくなっていた。この問題を解決するために、標準 ver.4 では汎用的に利用する「共通コア」情報項目と「中小業界固有」情報項目に構造化して識別するフレームに組み替え、マッピング作業を容易に行えるようにした。

共通 EDI\_BIE 表には多様な取引要素がクラスとして組み込まれている。これらのクラス取引要素はすべての取引で利用する「共通コア」要素と特定の業界取引に利用される

「業界固有」要素に識別している。

「業界固有」の取引要素は「共通コア」要素のオプション要素の位置づけであり、選択して組み込むことを可能とする構成としている。

中小企業共通 EDI 標準のメッセージ構成と、クラス取引要素の実装フレームワークを次に示す。

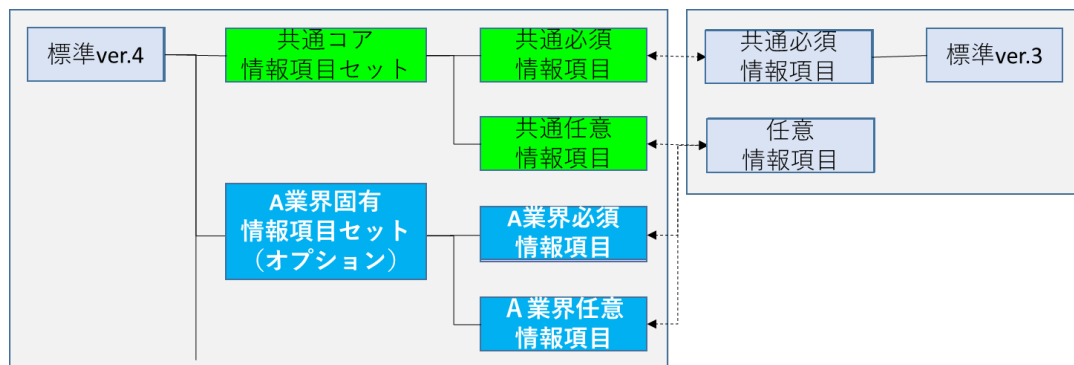


図 標準 ver.4 のメッセージ構成

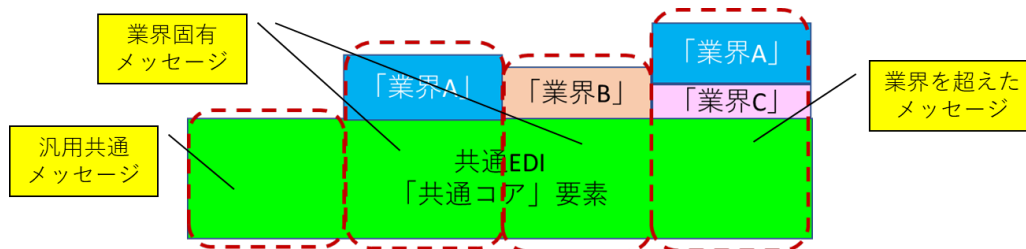


図 標準 ver.4 の実装フレームワーク

上図に示す通り中小企業共通 EDI メッセージの構成は汎用的な中小取引共通コアメッセージと中小業界別取引メッセージのいずれにも対応可能なフレームワークとなっている。「業界 C」で例示したように異なる「業界固有」要素を組み込むこともできる。「業界 C」の企業はこのメッセージを利用すれば「業界 A」の企業と業界を超えた連携が可能になる。

今後、他の中小企業業界の EDI 移行には各中小業界の固有情報項目を標準化して追加することが必要になると予想される。各中小業界内の標準仕様について合意が成立すれば今後のバージョンアップで中小企業共通 EDI への組込の可否を検討することとしたい。

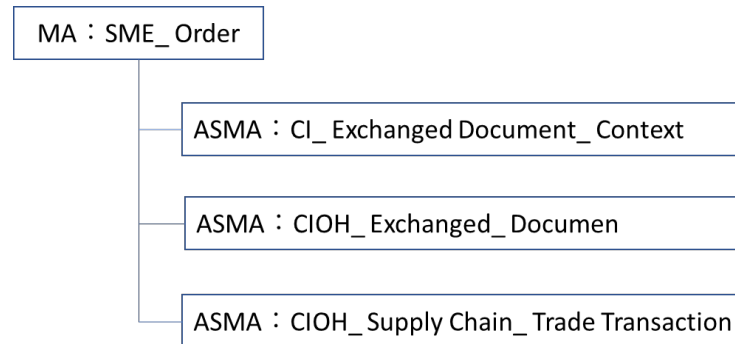
このような構成とすれば、新しい中小業界 EDI 仕様を共通 EDI 標準に組み込んでも既存の情報項目を組み込んだ業務アプリには影響しない。業界を超えた EDI 仕様は肥大化して使えなくなるという問題を解消することができる。

## 2. 2. 共通 EDI\_BIE 表の EDI 文書表現

EDI 文書の共通 EDI\_BIE 表は取引プロセスごとに提供されている。EDI 文書は共通 EDI\_BIE 表では MA として表され、その下位に ASMA が下図のように配置されている。

上述した ASBIE/ABIE/BBIE の構造化セットは各 ASMA の下位に配置されている。

注文情報（SME\_Order）の EDI 文書構成を次に例示する。



この共通 EDI\_BIE 表で示された EDI 文書の XML バインディング方法詳細は SIPS の下記サイト資料（29 ページ～）で解説されているので参照されたい。

<http://www.caos-a.co.jp/SIPS/itctools/html/guidelines/guidebook.pdf>



### 3. XML バインディングと実装

#### 3. 1. 国連 CEFACT\_XML メッセージの構築方法

##### 3. 1. 1. 情報項目のバインディング

国連 CEFACT はメッセージ辞書・BIE 表を XML メッセージにバインディングして XML スキーマを生成する方法として次の 3 つの手順を NDR に規定している。

##### (1) 国連 CEFACT XML 標準メッセージ

=>メッセージのトップレベルの ABIE (すなわち ASMA) のみ指定して、あとは Reusable ABIE をすべてインポートする方法 (国連 CEFACT ホームページに XML スキーマとして掲載)

##### (2) RDM (参照データモデル) メッセージ

=>使用する ABIE をあつめてモジュール化し (コンテキスト化と言う)、コンテキスト化 Reusable ABIE をインポートする方法 (国連 CEFACT ホームページの Streamed Presentation から公開されている)

##### (3) 文書個別メッセージ

=>メッセージ毎に使用する BIE を定義して作る XML メッセージ (SIPS 業界横断 EDI 仕様として使用)

#### 3. 1. 2. UDT、QDT のインポート

前項は情報項目 (BIE) の組み込み方についての規定であるが、さらに UDT、QDT をインポートして XML スキーマに組み込む方式としている。

UDT、QDT の意味を次に示す。

##### (1) UDT (Unqualified Data Type) :

CCTS (コアコンポーネント技術仕様書) に定義された全てのデータ型を含んだ XML スキーマ。通常使われる UDT は次の通り。

Amount. Type: 金額

Date Time. Type: 日時

Code. Type: コード

Rate. Type: 率

Quantity. Type: 数量

Text. Type: 文字列

Identifier. Type: 識別子

Binary Object. Type: バイナリ

UDT は次の URL からインポートできる。

```
<xsd:import
namespace="urn:un:unece:uncefact:data:standard:UnqualifiedDataType:30"
schemaLocation="UnqualifiedDataType_30p0.xsd"/>
```

## (2) QDT (Qualified Data Type) :

UDTを特定の制限を付けて使う場合にデータ型に修飾子を付けて定義する。例えば、UDTのCodeに修飾子CurrencyをつけるとCurrency\_Code.Typeとなり、通貨コードを規定することになる。

QDTは次のURLからインポートできる。

```
<xsd:import
namespace="urn:un:unece:uncefact:data:Standard:QualifiedDataType:30"
schemaLocation="QualifiedDataType_30p0.xsd"/>
```

## (3) ID 表とコード表

QDTで参照するID表及びコード表についてもインポートして組込める構成となっている。最新版のID表及びコード表は、国連CEFACTから年2回発行されるXML Schemaの"Codelist"ファイルから選択して使用できる。

公開されている国連CEFACT XMLスキーマは、2022年A版の場合、次のURLからZipファイルをダウンロードすることができる。

<https://unece.org/sites/default/files/2022-06/XMLSchemas-D22A.zip>

### 3. 2. 中小企業共通EDI標準のXMLメッセージの構築方法

中小企業共通EDI標準は情報項目の組込みについては(3)方式を採用している。

UDT、QDTについてはUDTのみをインポートし、QDTについては当面空欄で運用する。

コード表については日本国内のコード表整合化の動きを見極めることとし、当面はインポートせず、コード値のバリデーションは業務アプリが実施することとした。

### 3. 3. 共通EDI\_XML バインディング手順

共通EDI\_BIE表のEXCEL表は次の手順で、XMLスキーマへ変換して実装する。

- ① ITベンダーは業務アプリのEDI情報項目を<付表1>相互連携性情報項目表を参照して共通EDI標準情報項目とマッピング  
→ 中小企業共通EDI標準<付表3>共通EDIマッピング表を利用
- ② マッピングした情報項目を<付表2>メッセージ辞書・BIE表から抽出し、構造

化 XML スキーマを生成

→「メッセージ作成支援ツール」(SIPS 提供) を利用

[http://www.caos-a.co.jp/SIPS/itctools/html/inquiry/MessageTool\\_Package.zip](http://www.caos-a.co.jp/SIPS/itctools/html/inquiry/MessageTool_Package.zip)

「メッセージ作成支援ツール」は国連 CEFAC 共通辞書(日本語版)を参照して構造化スキーマを生成する。最新版の共通辞書(日本語版)は下記 URL より入手できる。

<http://www.caos-a.co.jp/SIPS/itctools/registryApplication.html>

国連 CEFAC の XML スキーマは「メッセージ作成支援ツール」で生成される構造化 XML スキーマとして取引プロセスごとに出力される。

生成される XML スキーマのファイル名は次のとおりである。

表 中小企業共通 EDI 標準 ver.4 XML スキーマ名

取引メッセージ	XML スキーマファイル名
見積依頼メッセージ	SMEQuotation.xsd
見積回答メッセージ	SMEQuotationResponse.xsd
注文メッセージ	SMEOrder.xsd
注文回答メッセージ	SMEOrderResponse.xsd
出荷案内メッセージ	SMEDespatchAdvice.xsd
統合請求メッセージ	SMEConsolidatedInvoice.xsd
統合仕入明細メッセージ	SMEConsolidatedSelfInvoice.xsd
単一請求メッセージ	SMEInvoice.xsd
単一仕入明細メッセージ	SMESelfInvoice.xsd
統合仕入明細回答メッセージ	SMEConsolidatedSelfInvoiceResponse.xsd
単一仕入明細回答メッセージ	SMESelfInvoiceResponse.xsd
支払通知メッセージ	SMERemittanceAdvice.xsd

### ③ 構造化 XML スキーマを実装可能な XML ソースコードへ転換

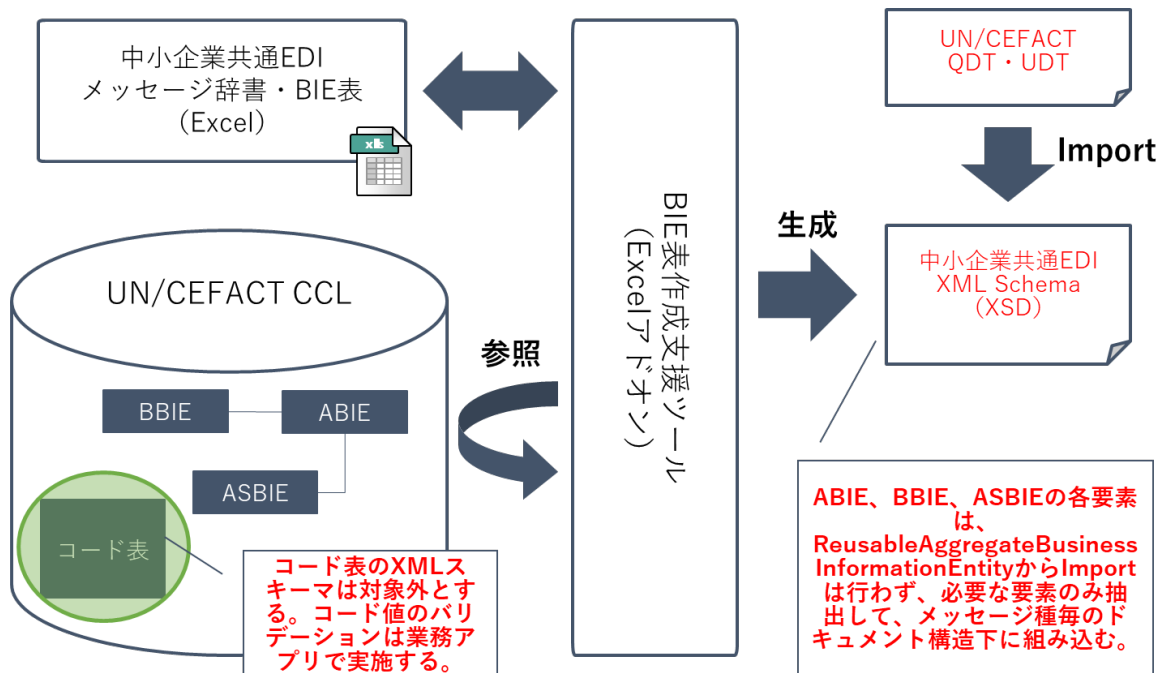
→開発言語ごとに提供される XML ソースコード生成ツールを利用

「メッセージ作成支援ツール」で生成された XML スキーマを基に開発言語の提供する XML スキーマ・コンパイラ・ツール等を使用して、XML データバインディング

可能なソースコードを生成する。

例として開発言語として Java を使用する場合は、Java Architecture for XML Binding (JAXB) ツールを使用して、xjc コマンドで XML スキーマから Java クラスを生成する。

参考のために BIE 表作成支援ツールを利用し XML スキーマを生成する手順を下図に示す。



UN/CEFACT\_CCL：下記 URL から最新版共通辞書（日本語版）を入手

<http://www.caos-a.co.jp/SIPS/itctools/registryApplication.html>

中小企業共通 EDI メッセージ辞書・BIE 表 ver.4：下記 URL から入手

<http://<準備中>>

図 XML スキーマの作成手順

### 3. 4. XMLスキーマの生成例

生成される XML スキーマは国連 CEFACCT の規定に基づき名前空間として構成される。

名前空間の構成を注文メッセージ SMEOrder について下図に示す。また注文メッセージの SMEOrder.xsd の先頭部分を例示する。

中小企業共通 EDI の XML スキーマは次の構成で生成される。

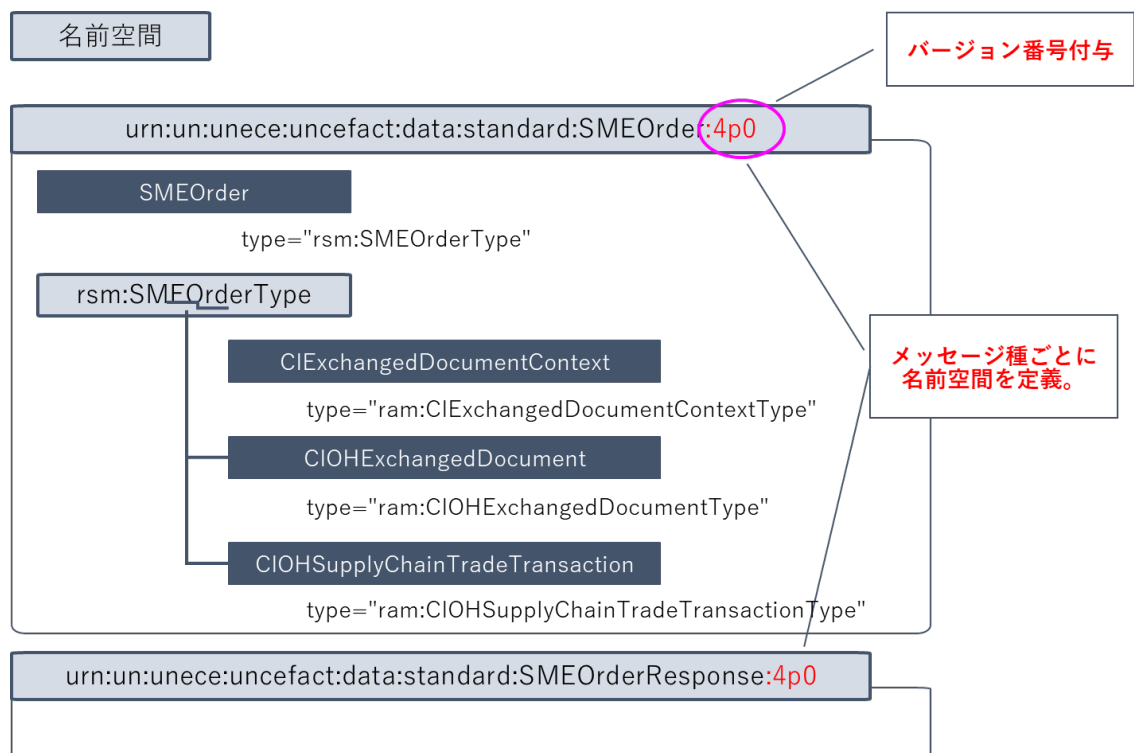


図 XML スキーマの構成（注文メッセージの XML スキーマ名前空間を例示）

注文メッセージの XML スキーマ SMEOrder.xsd の先頭部分を例示する。

以下の XML スキーマは、厳密に妥当性を検証し、実際にプログラムに実装し XML インスタンスを生成可能なことを確認してから正式版とする。

<!--

=====

===== -->

<!-- ===== SME Order Schema Module ===== -->

```

<!--
=====
===== -->

<!--
Schema agency:
Schema version:
Schema date:

-->

<xsd:schema xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
xmlns:rsm="urn:un:unece:uncefact:data:standard:SMEOrder:4p0"
xmlns:udt="urn:un:unece:uncefact:data:standard:UnqualifiedDataType:30"
xmlns:qdt="urn:un:unece:uncefact:data:Standard:QualifiedDataType:30"
targetNamespace="urn:un:unece:uncefact:data:standard:SMEOrder:4p0"
elementFormDefault="qualified"
attributeFormDefault="unqualified"
version="21.1">

<!--
=====
===== -->

<!-- ===== Imports ===== -->

<!--
=====
===== -->

<!--
=====
===== -->

<!-- ===== Import of Unqualified Data Type Schema Module ===== -->

<!--
=====
===== -->

```

```

<xsd:import namespace="urn:un:unece:uncefact:data:standard:UnqualifiedDataType:30"
schemaLocation="UnqualifiedDataType_30p0.xsd"/>

<!--
=====
===== -->

<!-- ===== Import of Qualified Data Type Schema Module ===== -->

<!--
=====
===== -->

<xsd:import namespace="urn:un:unece:uncefact:data:Standard:QualifiedDataType:30"
schemaLocation="QualifiedDataType_30p0.xsd"/>

<!--
=====
===== -->

<!-- ===== Element Declarations ===== -->

<!--
=====
===== -->

<!-- ===== Root Element Declarations ===== -->

<!--
=====
===== -->

<!-- Global 型宣言 -->

<xsd:element name="SMEOrder" type="rsm:SMEOrderType" />

<!--
=====
===== -->

<!-- ===== Type Definition: SMEOrderType ===== -->

<!--
=====
===== -->

<xsd:complexType name="SMEOrderType">

```

```
<xsd:sequence>

  <xsd:element name="CIExchangedDocumentContext"
type="CIExchangedDocumentContextType" minOccurs="1" >

    <!--UN01005479-->

  </xsd:element>

  <xsd:element name="CIOHExchangedDocument"
type="CIOHExchangedDocumentType" minOccurs="0" >

    <!--UN01006517-->

  </xsd:element>

  <xsd:element name="CIOHSupplyChainTradeTransaction"
type="CIOHSupplyChainTradeTransactionType" minOccurs="1" >

    <!--UN01006589-->

  </xsd:element>

</xsd:sequence>

</xsd:complexType>
```



4. サンプルデータ

下記の帳票を XML スキーマに組み込んだサンプルデータが下記の URL で提供されている。

<http://<準備中>>

●注文書サンプル帳票

コードNo. 0002

注文書

No. 503

180-0012  
東京都武蔵野市緑町3丁目10-30-20  
ミドリビル7F  
株式会社 Pole  
先方担当者様氏名 様  
TEL03-1207-6020 FAX03-1207-6021

2022 年 5 月 20 日 納期：2022/ 6/10  
株式会社PCA商事  
〒102-8171  
東京都千代田区富士見1-2-21 PCAビル  
TEL:03-1111-1111  
FAX:03-2222-2222  
部門:東京  
担当:井上 久司

注文 No	品番・品名	入数	箱数	数量	単位	単価	金額	備考	納期
	(0001) ｸﾙｼｱｼｬﾝﾌﾟｰ さん髪	6	3	18	個	468	8,424	備考欄1---	6/10
	(0002) ｸﾙｼｱｼｬﾝﾌﾟｰ LALA	6	2	12	個	512	6,144	備考欄2---	6/10
【合計】							14,568		

摘要：摘要名----->

直送先：0001  
145-0061  
東京都大田区石川町123-456  
さくら商店  
納入先担当者様氏名 様  
TEL03-4564-2352 FAX03-4564-2353

●請求書サンプル帳票

お客様No. 0001

請求書

No. 1-1

812-0011  
福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目-12-23  
福岡センタービル10F  
五越株式会社  
佐藤 勇作 様  
TEL: 092-401-4080 FAX:092-401-4081

22 年 5 月 31 日 締切分 (30)  
株式会社PCA商事  
〒102-8171  
東京都千代田区富士見1-2-21  
TEL:03-1111-1111 FAX:03-2222-2222  
【振込先】  
みずほ銀行 東京〇〇支店 (普) 5555  
登録番号：T1234567890123

前回御請求額	御入金額	調整額	繰越金額	御買上額	内消費税等	今回御請求額
4,327,258	0	0	4,327,258	8,614	767	¥4,335,872

伝票日付	伝票No.	品名	数量	単価	金額	税率
22/ 5/23	5526	ｸﾙｼｱｼｬﾝﾌﾟｰ さん髪	5 個	637	3,185	10.0%
		ｸﾙｼｱｼｬﾝﾌﾟｰ LALA	6 個	637	3,822	10.0%
		信州冷凍うどん 3人前	3 袋	280	840	8.0%※
		消費税等			767	
		【合計】			8,614	
		(内消費税等)			767	
		税率 課税対象額 消費税等				
10.0	¥7,007	¥700				
8.0※	¥840	¥67				

注) ※印は軽減税率(8%)適用商品

## ●サンプル注文書のマッピング

中小企業共通EDIマッピング表<注文情報モデル>

ver.4 draft r0d2 20220615

【凡例】	
中小企業 共通EDI マッピング	○ 中小企業共通EDI対応業務アプリの「必須」情報情報項目
	(○) 同じグループ内のいずれかの情報項目の記載が「必須」
	● 「選択必須」情報項目。業務アプリが実装しない場合は共通EDIプロバイダがデータセット（デフォルト、または補充データ）
	△ ユーザー非公開。共通EDIプロバイダがデータセット（デフォルト、またはデータなし）
	* すべての業界に共通して利用する「共通任意」情報項目
	利用しない情報項目
中小業界対応 マッピング	◇ 「業種固有必須」情報項目
	◆ 「業種固有任意」情報項目
消費税対応 (参考)	◎ 適格請求書に記載が必要な「法的必須」情報項目
	◎ 同じグループ内のいずれかの情報項目の記載が「必須」

発注者注文書送信アプリマッピング		
マッピングできない情報項目		
使用目的	項目名	記入例

相互連携性情報項目表						共通EDI マッピング
注文情報モデル					中小 共通コア 注文	
行番号	ヘッダ 明細	ID	項目名	項目定義	繰返し	
1	ヘッダ	CL-2	取引プロセス設定クラス	取引プロセスに関する情報のクラス	1..1	
2	ヘッダ	ID-7	取引プロセス識別子	取引プロセスの識別子(ID)	1..1	△
3	ヘッダ	OCL-1	注文文書クラス	注文文書全体に関する情報からなるクラス。	0..1	
4	ヘッダ	OID-1	注文文書	発注者が注文書を特定するために付番する管理番号。	1..1	○
5	ヘッダ	OID-2	注文書名	発注者が注文書に付与した文書名称	0..1	*
6	ヘッダ	OID-3	注文書タイプコード	この文書が注文書であることを識別するコード	0..1	*
7	ヘッダ	OID-4	注文書発効日	発注者が注文を行った日付、または注文書の書面上の発行日付。	1..1	○
8	ヘッダ	OID-5	注文目的コード	発注者が注文の目的（新規、変更、取消、打ち切り）を管理するために付番したコード	0..1	*
9	ヘッダ	OID-6	注文書改定日	注文書を改訂した日付	0..1	*
10	ヘッダ	OID-7	注文履歴番号	注文書の変更履歴を管理する番号。	0..1	*
11	ヘッダ	OID-8	注文状態コード	注文の状態（確定／仮発注／内示など）を管理するために発注者が附番したコード	0..1	*
12	ヘッダ	OCL-2	注文注釈ヘッダクラス	ヘッダ注釈を記述するためのクラス	0..n	
13	ヘッダ	OID-9	注文注釈表題 n	注釈内容の表題を示す。 デフォルト（注文注釈識別子 = 1）＝備考	0..1	*
14	ヘッダ	OID-10	注文注釈内容 n	注釈表題毎の内容情報を入力するフリースペース。 デフォルト（注文注釈識別子 = 1）＝備考の内容	0..1	*
15	ヘッダ	OID-11	注文注釈識別子	注釈の識別番号。共通EDIプロバイダがセット デフォルト = 1	0..1	△
25	ヘッダ	OCL-4	受注者クラス	受注者に関する情報からなるクラス。	1..1	
26	ヘッダ	OID-20	受注者コード	注文を受ける企業を表す企業コード。	(1..1)	(○)
27	ヘッダ	OID-21	受注者国際企業コード	注文を受ける企業を表す国際企業コード。中小企業共通EDIでは法人番号を利用	0..1	*
28	ヘッダ	OID-22	受注者名称	注文を受ける企業/工場・事業所・事業部門等を表す名称。	(1..1)	(○)
29	ヘッダ	OID-23	請求事業者登録番号	登録された請求者の適格請求書発行事業者番号	0..1	*
30	ヘッダ	OCL-5	受注者連絡先クラス	受注者連絡先に関する情報からなるクラス。	0..1	
31	ヘッダ	OID-24	受注者部門コード	注文を受ける受注部門を表すコード	0..1	*

利用帳票の情報項目マッピング		
利用	項目名	記入例
○	No.	50
○		注文書
○		2022 年 5 月 20 日
○	摘要	摘要名_____
△	共通EDI プロバイダ が補完入力	
○		株式会社PCA商事

相互連携性情報項目表 注文情報モデル						共通EDI マッピング
行番号	ヘッダ 明細	ID	項目名	項目定義	繰返し	中小 共通コア 注文
32	ヘッダ	OID-25	受注者担当名	受注者の受注担当者を表す名称	0..1	*
33	ヘッダ	OID-26	受注者部門名	受注者の受注部門を表す名称	0..1	*
34	ヘッダ	OID-27	受注者電話番号	受注者の電話番号。	0..1	*
35	ヘッダ	OID-28	受注者FAX番号	受注者のFAX番号	0..1	*
36	ヘッダ	OID-29	受注者メールアドレス	受注者の電子メールアドレス。	0..1	*
37	ヘッダ	OCL-6	受注者住所クラス	受注者住所に関する情報からなるクラス。	0..1	*
38	ヘッダ	OID-30	受注者郵便番号	受注者の郵便番号。	0..1	*
39	ヘッダ	OID-31	受注者住所	受注者の住所。	0..1	*
40	ヘッダ	OCL-7	発注者クラス	発注者に関する情報からなるクラス。	0..1	*
41	ヘッダ	OID-32	発注者コード	注文を行う企業/工場・事業所・事業部門等を表すコード	(1..1)	(○)
42	ヘッダ	OID-33	発注者国際企業コード	注文を行う企業を表す国際企業コード。中小企業共通EDIでは法人番号を利用	0..1	*
43	ヘッダ	OID-34	発注者名称	注文を行う企業/工場・事業所・事業部門等を表す名称。	(1..1)	(○)
44	ヘッダ	OCL-8	発注者連絡先クラス	発注者連絡先に関する情報からなるクラス。	0..1	*
45	ヘッダ	OID-35	発注者部門コード	発注者の発注部門を表すコード	0..1	*
46	ヘッダ	OID-36	発注者担当名	発注者の発注担当者の名称	0..1	*
47	ヘッダ	OID-37	発注者部門名	発注者の発注部門を表す名称	0..1	*
48	ヘッダ	OID-38	発注者電話番号	発注者の電話番号。	0..1	*
49	ヘッダ	OID-39	発注者FAX番号	発注者のFAX番号。	0..1	*
50	ヘッダ	OID-40	発注者メールアドレス	発注者の電子メールアドレス。	0..1	*
51	ヘッダ	OCL-9	発注者住所クラス	発注者住所に関する情報からなるクラス。	0..1	*
52	ヘッダ	OID-41	発注者郵便番号	発注者の郵便番号。	0..1	*
53	ヘッダ	OID-42	発注者住所	発注者の住所。	0..1	*
68	ヘッダ	OCL-12	関係企業クラス	注文に関係する企業（エンドユーザー、代理店など）のクラス	0..n	*
69	ヘッダ	OID-55	関係企業コード	商社経由取引などで注文に関係する企業（エンドユーザー、代理店など）を示すコード	0..1	*
70	ヘッダ	OID-56	関係企業国際企業コード	関係企業を表す国際企業コード。中小企業共通EDIでは法人番号を利用	0..1	*
71	ヘッダ	OID-57	関係企業名	商社経由取引などで注文に関係する企業（エンドユーザー、代理店など）の名称	0..1	*
72	ヘッダ	OID-58	関係企業役割コード	関係企業の役割を特定するコード（付表3参照）	0..1	*
73	ヘッダ	OCL-13	関係企業連絡先クラス	関係企業の連絡先に関する情報からなるクラス。	0..1	*
74	ヘッダ	OID-59	関係企業部門コード	関係企業の担当部門コード	0..1	*
75	ヘッダ	OID-60	関係企業担当者名	関係企業の担当者の氏名	0..1	*
76	ヘッダ	OID-61	関係企業部門名	関係企業の担当部門名	0..1	*
86	ヘッダ	OCL-17	納入先ヘッダクラス	納入先企業に関する情報からなるヘッダクラス。	-	*
87	ヘッダ	OID-68	納入先コード	納入先の企業/工場・事業所・事業部門等を表すコード	0..1	*
88	ヘッダ	OID-69	納入先国際企業コード	納入先企業を表す国際企業コード。中小企業共通EDIでは法人番号を利用	0..1	*
89	ヘッダ	OID-70	納入先名称	納入先の企業/工場・事業所・事業部門等の名称	0..1	*

利用振票の情報項目マッピング		
利用	項目名	記入例
○		井上 久司
○		東京
○		03-1111-1111
△		03-2222-2222
○		102-8171
○		東京都千代田区富士見1-2-21 PCAビル
○	コードNo	0002
○		株式会社 Pole
○	先方担当者様氏名	先方担当者様氏名
○		03-1207-6020
○		03-1207-6021
○		180-1112
○		東京都武蔵野市緑町3丁目10-30-20 ミッドリット #7F
○	直送先	0001
○		さくら商店

相互連携性情報項目表 注文情報モデル						共通EDI マッピング
行番号	ヘッダ 明細	ID	項目名	項目定義	繰返し	中小 共通コア 注文
90	ヘッダ	OCL-18	納入先連絡先クラス	納入先の連絡先に関する情報からなるクラス。	0..1	
91	ヘッダ	OID-71	納入先部門コード	納入先の担当部門コード	0..1	*
92	ヘッダ	OID-72	納入先担当者名	納入先の担当者の氏名	0..1	*
93	ヘッダ	OID-73	納入先部門名	納入先の担当部門名	0..1	*
94	ヘッダ	OID-74	納入先担当者コード	納入先の担当者コード	0..1	*
95	ヘッダ	OID-75	納入先電話番号	納入先の電話番号	0..1	*
96	ヘッダ	OID-76	納入先FAX番号	納入先のFAX番号。	0..1	*
97	ヘッダ	OID-77	納入先メールアドレス	納入先の電子メールアドレス	0..1	*
98	ヘッダ	OCL-19	納入先住所クラス	納入先企業の住所情報に関するグループ。	0..1	
99	ヘッダ	OID-78	納入先郵便番号	納入先の郵便番号	0..1	*
100	ヘッダ	OID-79	納入先住所	納入先の住所	0..1	*
101	ヘッダ	OCL-20	出荷先クラス	出荷先企業に関する情報からなるクラス。	0..1	
102	ヘッダ	OID-80	出荷元コード	出荷元の企業／工場・事業所・事業部門等を表すコード	0..1	*
103	ヘッダ	OID-81	出荷元名称	出荷元の企業／工場・事業所・事業部門等の名称	0..1	*
104	ヘッダ	OCL-21	配送作業クラス	配送作業の情報からなるクラス	0..1	
105	ヘッダ	OID-82	作業番号	作業を識別するために付与した番号	0..1	*
106	ヘッダ	OID-83	代表納期	プロジェクトなどの代表納期	0..1	*
107	ヘッダ	OID-84	配送タイプコード	発注品の配送条件を識別するコード	0..1	*
108	ヘッダ	OID-85	配送条件	配送区分の内容の説明文	0..1	*
111	ヘッダ	OCL-23	注文決済クラス	注文時の決済に関する情報からなるクラス。	1..1	
112	ヘッダ	OID-87	通貨コード	通貨の種別を示すコード。	0..1	*
113	ヘッダ	OCL-24	ヘッダ税クラス	ヘッダの税に関する情報のクラス	0..n	
114	ヘッダ	OID-88	税額	課税分類毎の消費税額	0..1	*
115	ヘッダ	OID-89	税タイプコード	税の種類(消費税、関税等)を識別するコード	0..1	*
116	ヘッダ	OID-90	課税対象合計金額（税抜き）	税区分毎の税抜き課税対象合計金額	(1..1)	(○)
117	ヘッダ	OID-91	課税分類コード	消費税の課税分類属性(標準税率、軽減税率など)を識別するための識別コード。税クラスの繰返しの自動識別キーとして使用	0..1	●
118	ヘッダ	OID-92	課税分類名	消費税の課税分類属性(標準税率、軽減税率など)を識別するための分類名	0..1	*
119	ヘッダ	OID-93	税率	税区分毎の税額計算のための率。	0..1	*
120	ヘッダ	OID-94	課税対象合計金額（税込み）	課税分類毎の税額を含む課税対象合計金額	(1..1)	(○)
121	ヘッダ	OID-95	税計算方式	金額の税込み、税抜きを指定。 デフォルトは「税抜き」 ※金額が「税込み」の場合は必須。	0..1	●
122	ヘッダ	OCL-25	支払条件クラス	支払条件に関する情報からなるクラス。	0..1	
123	ヘッダ	OID-96	支払条件	商取引上の支払方法等の支払い条件に関して発注者が指定	0..1	*
124	ヘッダ	OID-97	支払方法	商取引上の支払方法を識別するためのコード	0..1	*
125	ヘッダ	OCL-26	金額集計クラス	注文書ヘッダ合計金額のクラス	0..1	
126	ヘッダ	OID-98	合計税額	発注明細消費税額の合計金額。	0..1	*
127	ヘッダ	OID-99	税込み注文総合計金額	税込み明細発注金額の総合計金額。	0..1	*
128	ヘッダ	OID-100	注文合計金額(税抜き)	注文明細金額（税抜き）の合計金額。	0..1	*
129	ヘッダ	OID-101	注文合計金額（税込み）	注文明細金額（税込み）の合計金額。	0..1	*

利用帳票の情報項目マッピング		
利用	項目名	記入例
○	納入先担当者様氏名	納入先担当者様氏名 様
○		03-4564-2352
○		03-4564-2353
○		1 4 5 - 0 0 6 1
		東京都大田区石川町123-456
○	納期	44722
○	【合計】	14568

相互連携性情報項目表 注文情報モデル						共通EDI マッピング
行番号	ヘッダ 明細	ID	項目名	項目定義	繰返し	中小 共通コア 注文
130	明細行	OCL-27	注文明細行クラス	注文の明細行に関する情報からなるクラス。	0..n	
131	明細行	OID-102	注文明細行番号	複数明細発注の行番号。明細発注を特定するためには注文番号との複合キーで特定する。	1..1	○
132	明細行	OID-103	注文明細状態コード	発注者が注文明細の目的（新規、変更、取消、打ち切り）を管理するために付番したコード	0..1	*
133	明細行	OID-104	注文明細変更理由コード	注文明細毎の注文変更の内容を示すコード。（納期・単価・数量を変更）	0..1	*
134	明細行	OID-105	注文明細番号	複数明細発注の場合に明細毎の発注を特定するために付与した番号。	0..1	*
135	明細行	OID-106	注文明細類型コード	注文書明細の注文類型（一般品、特注品など）を管理するために発注者が附番したコード	0..1	*
136	明細行	OCL-28	注文明細注釈クラス	明細注釈を記述するクラス	0..n	
137	明細行	OID-107	注文明細注釈表題	明細注釈内容の表題を示す。 デフォルト（注文注釈識別子＝1）＝備考	0..1	*
138	明細行	OID-108	注文明細注釈内容	明細注釈表題毎の内容情報を入力するフリースペース。 デフォルト（注文注釈識別子＝1）＝備考の内容	0..1	*
139	明細行	OID-109	注文明細注釈識別子	明細注釈の識別番号。共通EDIプロバイダがセット デフォルト＝1	0..1	△
143	明細行	OCL-30	（参照）付加文書明細クラス	参照する文書に関する情報のクラス	0..1	
144	明細行	OID-112	エンドユーザー注文番号	この明細行が参照する最終得意先が注文に付与した番号	0..1	*
145	明細行	OCL-31	注文価格クラス	注文価格に関する情報からなるクラス。	1..1	
146	明細行	OID-113	単価コード	単価の種別を示すコード	0..1	*
147	明細行	OID-114	注文単価	発注者が提示した明細発注品の1単位あたりの取引単価。税込み、税抜きは識別子ヘッダ部の「UN01013096：税計算方式」で指定（指定がない場合は税抜き）。	1..1	○
148	明細行	OID-115	単価基準数量	●定貨品目の場合： 単価基準数量＝1（デフォルト）" ●不定貨品目の場合： 単価基準数量＝単価の基準となる重量・容量 ●ハイブリッド品目の場合： 単価基準数量＝1	0..1	*
149	明細行	OID-116	単価基準数量単位コード	単価基準数量の数量単位コード名 入力なしの場合は「数量単位コード」を引き継ぐ		*
150	明細行	OCL-32	納入条件クラス	納入条件に関するクラス。	0..1	
151	明細行	OID-117	納入条件	納入条件についての説明	0..1	*

[illegible][illegible]

相互連携性情報項目表 注文情報モデル						共通EDI マッピング 中小 共通コア 注文
行番号	ヘッダ 明細	ID	項目名	項目定義	繰返し	
152	明細行	OCL-33	注文明細配送クラス	注文明細行の配送に関する情報からなるクラス。	1..1	
153	明細行	OID-118	注文数量	発注者が提示した明細発注品の数量。 バラ数量発注、またはセット数量発注の指定はマッピング表の数量単位の指定でを行い、数量の属性として組み込む	0..1	○
154	明細行	OID-119	セット単位数量(入り数)	●定貨品目（個数でカウントできる品目）の数量単位指定が「セット」の場合：1セット当たりのバラ数量 ●定貨品目の数量単位指定が「個」の場合：利用しない ●不定貨品目（個数でカウントできない品目）の数量単位指定の場合：利用しない。 ●ハイブリッド品目（数量指定は定貨品目、金額計算は不定貨品目）の場合：指定した定貨品目数量単位の1単位当たりの重量等	0..1	●
155	明細行	OID-120	セット数量	この明細行品目がセットで請求された場合のセット数量 流通業の固有仕様。バラ数量と組合せて利用	0..1	◇
156	明細行	OID-121	バラ数量	この明細行品目が単体（バラ）で請求された場合の数量 流通業の固有仕様。セット数量と組合せて利用	0..1	◇
157	明細行	OID-122	数量単位コード	数量単位のコード名		○
171	明細行	OCL-37	納入指示クラス	納入指示に関する情報からなるクラス	0..1	
172	明細行	OID-133	納入指示コード	納入指示（納期必着）を示すコード	0..1	*
173	明細行	OCL-38	要求納期クラス	納入要求に関する情報からなるクラス	1..1	
174	明細行	OID-134	要求納入日	発注者から受注者に提示した、明細発注品の納入期日、または納入希望日。	1..1	○
175	明細行	OID-135	配送タイプコード	配送タイプを指定するコード	0..1	*
176	明細行	OID-136	要求納入時間	発注者から受注者に提示した、明細発注品の納入希望時間。	0..1	*
177	明細行	OCL-39	納入場所クラス	納入場所に関する情報からなるクラス。	0..1	
178	明細行	OID-137	納入場所コード	納入場所または受渡場所を示すコード。	0..1	*
179	明細行	OID-138	納入場所名称	納入場所または受渡場所の名称。	0..1	*
180	明細行	OCL-40	明細行税クラス	明細行の税に関する情報のクラス	0..1	
181	明細行	OID-139	税タイプコード	税の種類(消費税、関税等)を識別するコード	0..1	*
182	明細行	OID-140	課税対象金額（税抜き）	税抜き消費税課税対象金額（＝半価(税抜き)×数量）	0..1	*
183	明細行	OID-141	課税分類コード	消費税の計算属性(標準税率、軽減税率など)を識別するための識別コード。	0..1	○
184	明細行	OID-142	課税分類名	消費税の計算属性(標準税率、軽減税率など)を識別するための分類名	0..1	*
185	明細行	OID-143	税率	税区分に対応する消費税率	0..1	○
186	明細行	OID-144	課税対象金額（税込）	税込消費税課税対象金額（＝半価(税込み)×数量）	0..1	*

[illegible][illegible]

相互連携性情報項目表 注文情報モデル						共通EDI マッピング
行番号	ヘッダ 明細	ID	項目名	項目定義	繰返し	中小 共通コア 注文
187	明細行	OCL-41	注文明細金額集計クラス	注文明細行の合計金額のクラス	0..1	
188	明細行	OID-145	注文明細金額 (税抜き)	注文明細の注文金額(税抜き)。(単価×数量)	0..1	*
189	明細行	OID-146	注文明細金額 (税込み)	明細発注品の注文明細金額(税込み)。 (単価(税込み)×数量)	0..1	*
190	明細行	OCL-42	取引品目クラス	注文明細行の取引品目に関する情報からなるクラス。	1..1	
191	明細行	OID-147	品目コード	発注品目をユニークに識別するために付加したコード	0..1	*
192	明細行	OID-148	グローバル品目コード	GTIN、JANコードなどの国際的に登録された品目コード	0..1	*
193	明細行	OID-149	受注者品名コード	受注者が品目を特定するために付与したコード	0..1	*
194	明細行	OID-150	発注者品名コード	発注者が品目を特定するために付与したコード	0..1	*
195	明細行	OID-151	メーカー品名コード	品目を特定するために製造者が付与したコード	0..1	*
196	明細行	OID-152	品目名	発注品目の品名。	0..1	*
197	明細行	OID-153	品目摘要	この取引品目を文字で説明したもの	0..1	○
198	明細行	OID-154	品目タイプコード	品目のタイプ (定貨品目、不定貨品目、ハイブリッド品目、実測不定貨品目、実測ハイブリッド品目) を識別するコード。デフォルトは定貨品目	0..1	●
225	明細行	OCL-49	梱包クラス	物流梱包に関する情報からなるクラス	0..1	
226	明細行	OID-175	物流物流梱包単位個数	物流梱包単位の数量	0..1	*
227	明細行	OID-176	梱包数量単位コード	梱包数量の単位コード	0..1	*
228	明細行	OID-177	荷姿コード	納入品のパッケージの梱包方法を示すコード。	0..1	*

利用帳票の情報項目マッピング		
利用	項目名	記入例
○	金額	8424
○	品番	(0001)
○	品名	ｸﾙｼﾞｱｼｮｯﾌﾟ - さん髪
○	備考	備考欄 1 _____

○	金額	6144
○	品番	(0002)
○	品名	ｸﾙｼﾞｱｼｮｯﾌﾟ - LALA
○	備考	備考欄 2 _____

## ● サンプル請求書のマッピング

中小企業共通EDIマッピング表&lt;共通コア請求モデル&gt;

ver.4\_draft\_r0d2\_20220615

相互連携性情報項目表 単一請求/共通コア請求情報モデル						共通EDI マッピング	JP-PINT マッピング
行番号	ヘッダ 明細文書 明細行	ID	項目名	項目定義	繰返し	区分1 共通コア 請求	V0.9 (参考)
1	ヘッダ	CL2	取引プロセス設定クラス	取引プロセスに関する情報のクラス	1..1		☆
2	ヘッダ	ID3	取引プロセス識別子	取引プロセスの識別子(ID) 共通EDIプロバイダがプロセスをセットする	1..1	△	☆
3	ヘッダ	ICL1	ヘッダ文書クラス	ヘッダ文書に関する情報項目のクラス	1..1		
4	ヘッダ	IID1	ヘッダ文書番号	ヘッダ文書を識別する文書番号または文書文字列	1..1	○	☆
5	ヘッダ	IID2	ヘッダ文書名	ヘッダ文書の文書名称	0..1	*	
6	ヘッダ	IID3	ヘッダ文書タイプコード	ヘッダ文書のタイプを識別するコード デフォルトは「合算請求書パターン1」	1..1	●	☆
7	ヘッダ	IID4	ヘッダ文書発効日	ヘッダ文書の発行日付、またはヘッダ文書の書面上の発行日付。	1..1	○	☆
8	ヘッダ	IID7	ヘッダ文書サブタイプコード	地域固有の文書のタイプを識別するコード デフォルトは「合算請求書パターン1」	1..1	●	
9	ヘッダ	ICL2	ヘッダ文書注釈クラス	ヘッダ文書の注釈を記述するためのクラス	0..n		★
10	ヘッダ	IID8	ヘッダ文書注釈表題	注釈内容の表題を示す。	0..1	*	
11	ヘッダ	IID9	ヘッダ文書注釈内容	注釈項目毎の内容情報を入力するフリースペース。	0..1	*	★
12	ヘッダ	IID10	ヘッダ文書注釈識別子	注釈の識別番号	0..1	△	★
13	ヘッダ	ICL5	受注者クラス	受注者に関する情報からなるクラス。	1..1		☆
14	ヘッダ	IID22	受注者コード	注文を受ける企業/工場・事業所・事業部門等を表すコード。 デフォルトはデータなし。	1..1	*	★
15	ヘッダ	IID24	受注者名称	注文を受ける企業/工場・事業所・事業部門等を表す名称。 適格請求書、または区分記載請求書を発行する事業者名。	1..1	◎	☆
16	ヘッダ	IID25	適格請求書発行事業者登録番号	国税庁へ登録された適格請求書発行事業者登録番号 (区分記載請求書発行者についてはなし)	1..1	◎	★



相互連携性情報項目表					共通EDI マッピング	JP-PINT マッピング
単一請求／共通コア請求情報モデル					区分1 共通コア 請求	V0.9 (参考)
行番号	ヘッダ 明細文書 明細行	ID	項目名	項目定義	繰返 し	
42	ヘッダ	IID135	金融機関番号	債権者の金融機関番号（日本の場合）	0.1	<★>
43	ヘッダ	ICL30	金融機関支店クラス	銀行、住宅金融組合、信用金庫、証券会社、あるいはそれと類似の事業の部門のクラス。主に金融サービスと金融取引を提供するために設立された機関の支店。	0.1	
44	ヘッダ	IID136	金融機関支店番号	金融機関のこの支店の一意識別子	0.1	<★>
45	ヘッダ	IID137	金融機関支店名	金融機関のこの支店の、文字で表現された名前	0.1	*
46	ヘッダ	ICL34	ヘッダ税クラス	ヘッダの税に関する情報からなるクラス	0.n	☆
47	ヘッダ	IID147	ヘッダ課税分類税額	①文書タイプコード＝単一文書の場合 課税分類毎に計算した税額＝ヘッダ課税分類譲渡資産合計金額（税抜き）×ヘッダ税率 ②文書タイプコード＝統合文書の場合 消費税額計算はヘッダ税クラスでは行わない。	0.1	☆
48	ヘッダ	IID149	ヘッダ課税分類譲渡資産合計金額（税抜き）	課税分類毎の税抜き譲渡資産金額の合計金額 課税分類別税額計算するための根拠金額	0.1	☆
		IID150	ヘッダ課税分類コード	消費税の課税分類（標準税率、軽減税率、非課税、免税等）を識別するコード	0.1	☆
49	ヘッダ	IID153	ヘッダ税率	課税分類毎の税額計算のための率。	0.1	★
50	ヘッダ	IID154	ヘッダ課税分類譲渡資産合計金額（税込み）	課税分類毎の税額を含む譲渡資産金額の合計金額 割戻し計算で税額計算するための根拠金額	0.1	
51	ヘッダ	IID155	ヘッダ税計算方式	金額の税込み、税抜きを指定。 デフォルトは「税抜き」	0.1	
52	ヘッダ	ICL35	ヘッダ取引期間クラス	ヘッダ取引期間に関する情報からなるクラス	0.1	★
53	ヘッダ	IID157	ヘッダ取引開始日	ヘッダ文書の取引開始日	1.1	★
54	ヘッダ	IID158	ヘッダ取引終了日	ヘッダ文書の取引終了日	1.1	★
55	ヘッダ	ICL37	ヘッダ文書合計金額クラス	ヘッダ文書合計金額に関する情報からなるクラス	0.1	☆
56	ヘッダ	IID164	ヘッダ文書総合合計金額（税抜き）	ヘッダ文書の総合合計金額（税抜き） ＝ヘッダ譲渡資産合計金額（税抜き）－ヘッダ返金合計金額 ＋ヘッダ追加請求合計金額	0.1	☆
57	ヘッダ	IID165	ヘッダ総合合計税額	ヘッダ課税分類税額の総合合計税額 ヘッダ文書の総合合計金額（税込み）－	0.1	★
58	ヘッダ	IID166	ヘッダ文書総合合計金額（税込み）	ヘッダ文書総合合計金額（税抜き）＋ヘッダ総合合計税額 ＋未払い総合合計金額	0.1	☆
59	ヘッダ	ICL41	未決済合計金額クラス	未払い合計金額に関する情報からなるクラス	0.1	
60	ヘッダ	IID182	追加請求合計金額（消費税対象外）	消費税が関係しない追加請求合計金額	0.1	*
61	ヘッダ	IID183	返金合計金額（消費税対象外）	消費税が関係しない返金合計金額	0.1	*
62	ヘッダ	IID184	前回インボイス文書総合合計金額（税込み）	未払いの前回インボイス文書の総合合計金額（税込み）	1.1	*
63	ヘッダ	IID185	入金済金額（消費税対象外）	前回インボイス文書総合合計金額のうち、入金済合計金額	1.1	*
64	ヘッダ	IID186	未決済総合合計金額（消費税対象外）	未払い総合合計金額－ 前回インボイス文書総合合計金額（税込み）－入金済金額 追加請求合計金額（課税外）－返金合計金額（課税外）	0.1	*
68	明細行	ICL64	明細行クラス	明細行に関する情報からなるクラス	1.n	☆
69	明細行	IID258	明細行番号	この文書の明細行に関する情報を特定するために付与した行番号。明細行をユニークに識別するために付番する場合は文	1.1	☆

利用帳票の情報項目マッピング		
利用	項目名	記入例
○		東京○○支店
○	消費税等	700
○	課税対象額	7,007
△		
○	税率	10
○		
○	御売上額	8,614
○	内消費税等	767
○	今回御請求額	4,335,872
○	調整額	0
○	前回御請求額	4,327,258
○	御入金額	0
○	繰越金額	4,327,258
△	共通EDIプロバイダが補充入力	1

○	消費税等	67
○	課税対象額	840
△		
○	税率	8

△	共通EDIプロバイダが補充入力	2	△	共通EDIプロバイダが補充入力	3
---	-----------------	---	---	-----------------	---

相互連携性情報項目表 単一請求／共通コア請求情報モデル					共通EDI マッピング	JP-PINT マッピング
行番号	ヘッダ 明細文書 明細行	ID	項目名	項目定義	繰返し 区分1 共通コア 請求	V0.9 (参考)
70	明細行	IID259	明細行類型コード	この明細行の取引類型（資産譲渡、返金・追加請求、調整等）を識別するコード。	0.1	●
71	明細行	ICL68	契約単価クラス	明細行の契約単価に関する情報からなるクラス。	1.1	☆
72	明細行	IID271	契約単価	発注者と受注者が合意した明細発注品の単価。単価基準数量と単価基準数量単位の指定に従う。	1.1	○
73	明細行	ICL69	明細行納入クラス	明細行の納入に関する情報からなるクラス	1.1	
74	明細行	IID276	セット単位数量(入り数)	●定貨品目の数量単位指定が「セット」の場合：1セット当たりのバラ数量。 ●定貨品目の数量単位指定が「個」の場合：利用しない ●不定貨品目の数量単位指定の場合：利用しない。 ●ハイブリッド品目の場合：指定した定貨品目数量単位の1単位当たりの重量等	0.1	●
75	明細行	IID277	請求数量	この明細行品目の請求数量	1.1	○
76	明細行	IID278	数量単位コード	数量単位のコード名		●
77	明細行	ICL71	明細行税クラス	明細行の税に関する情報に関するクラス	1.1	
78	明細行	IID281	明細行課税分類譲渡資産金額（税抜き）	この明細行の課税分類（明細行課税分類コード／税率）毎の税抜き譲渡資産金額（契約単価×請求数量） 契約単価×数量で指定できない場合は金額	1.1	(○)
79	明細行	IID282	明細行課税分類コード	この明細行の消費税の課税分類（標準税率、軽減税率、不課税、非課税、免税等）を識別するコード	1.1	△
80	明細行	IID284	明細行税率	この明細行の課税分類区分を識別するため、明細行課税分類コードと組み合わせて利用する。	1.1	○
81	明細行	IID285	明細行課税分類譲渡資産金額(税込み)	この明細行の課税分類毎の税額を含む譲渡資産金額	0.1	(○)
82	明細行	ICL75	明細行取引期間クラス	明細行の取引期間に関する情報からなるクラス	1.1	★
83	明細行	IID300	明細行取引開始日	この明細行の取引開始日	1.1	◎
84	明細行	IID301	明細行取引終了日	この明細行の取引終了日	1.1	●
85	明細行	ICL76	取引品目クラス	取引品目に関する情報からなるクラス。	1.1	☆
86	明細行	IID303	品名	この取引の品名。	0.1	●
87	明細行	IID304	品目摘要	この取引品目内容を文字で説明したもの	1.1	◎

利用帳票の情報項目マッピング		
利用	項目名	記入例
○	単価	637
○	数量	5
○		個
○	金額	3.185
△	共通EDIプロバイダが補完入力	S
○	税率	10.0
○	品名	ｸﾞﾗｼﾞｱｼｬﾝﾌﾞｰ - さん髷

○	単価	637
○	数量	6
○		個
○	金額	3.822
△	共通EDIプロバイダが補完入力	S
○	税率	10.0
○	品名	ｸﾞﾗｼﾞｱｼｬﾝﾌﾞｰ - LALA

○	単価	280
○	数量	3
○		袋
○	金額	840
○	共通EDIプロバイダが補完入力	AA
○	税率	8.0
○	品名	信州冷凍うどん 3人前